Q	博物館ができた時に、人件費や維持費など、年間どのくらいかかるのかが市民の一番気になること
	だと思う。想定しているか。
文化課長	年間維持費、ランニングコストは、建物を維持管理する経費、そこで働く人の人件費、そしてそこ
	で行う事業の内容によって、金額は変化する。これから基本計画を作り、博物館でどのような事業
	を行うか、そのためにどういったものが必要か、その部屋はどれくらいの規模か、ということを検
	討していきく。そこが決まらないとランニングコストは計算できない。
	市の学芸員は6人おり、うち3人は埋蔵文化財センターに勤務し、法律で定められた仕事をしてい
	る。あとの3人は歴史的な部分を担っている。その3人は博物館の担当になると思われるが、それ以
	外にも増やす必要があるかどうか、施設を管理する事務職は何人必要かなど、規模や事業が決まっ
	てから決まっていくことになる。
Q	博物館の地域への貢献という言葉があり、観光と書いてある。富士山世界遺産センターのようにな
	れば非常に良いことだが、博物館と美術館のようなに、他の物を併用して公開しようという考え方
	はあるか。
文化課長	今の構想の中では富士宮市の歴史文化資源を扱う博物館を作ろうとしている。美術館については検
	討は全くしておらず、今のところ博物館を作るということで進んでいる。
市長	郷土史博物館は作るということを前提に話を進めさせていただいている。作るかどうか分からない
	のではなく、もう作っていくんだという考え方でいる。
	基本構想をつくり、これから基本計画、そして基本設計、そして実施設計と。まだこれから段階を
	一つずつ踏まなければならない。そのたびに具体的なことがあらわれてくるが、今は基本計画を進
	める。皆さんが期待するような、どこにどうしてどういう風につくるのか、というところまでは進
	んでいない段階ということをご理解いただきたい。
	これまで8年くらい富士宮に住んで、富士宮は歴史や文化にあまり興味がないと強く思った。こんな
Q	に素晴らしい歴史や文化があるのに博物館がないことにびっくりした。
	そういう中で今日話を聞いて、歴史に興味ない方には本当にやっぱりいらないなと思うなという説
	明だ。
	それは、展示がメインになっていることもその1つであるが、地域に博物館があるという意義をも
	う少し伝えていかないと難しいと思う。例えば世界遺産に認定されているが、普通に暮らしていた
	らあまり気づかないような研究者たちの研究があってこそ、構成資産に認定されたりしたと思う。
	博物館がないことで、研究が遅れたり、それによって例えば世界遺産にならなかったり、観光地と
	してほかに遅れをとったりすることが考えられると思う。
	そういった歴史や文化は、すぐにお金を生むわけではないので、多分皆さんはすぐ、こんなにかか
	るのにいらないとなってしまうと思うが、そういった世界遺産認定によって経済効果もあるわけ
	で、そういったことも含めてまちに博物館があるということの意義みたいなものからアプローチを
	していかないと、中々皆さん博物館があっていいなという認識にならないような気がする。
	そのあたりでほかのアプローチの仕方や工夫、前回の質疑応答の結果を踏まえて、何か変えたとこ
	ろや、変えていかなければならないところはあるか?

おっしゃる通り富士宮市には色々な歴史や文化があり、本当にそれを発表する場所がないというの は本当に残念なことで、静岡県の中でも十万人以上の都市で博物館がないのは富士宮市だけという ことで、非常に憂いている。

市長

ここに、文化課が作った『どうなる富士宮』という小冊子があるが、これを見るだけでも富士宮市 の歴史そのものは源頼朝の、もっと言うなら弥生、あるいは縄文時代の歴史も非常に、いろんな遺 物がある。

そうしたものを色々な人たちに見ていただきたい。市民が理解すると同時に、それをまた勉強して 今までの祖先のありよう、生きざまがどうであったかなども勉強したい、観光にもつなげたい、ま ちの活性化にもつなげたいなど、郷土史博物館を作ることによって色々なメリットがある。

そうしたことを市民の皆さんにできるだけ分かっていただき、富士宮市を豊かにしようと、そして 活力あるまちにしようと、こんなことが狙いで今この建設に向けて進めている。

博物館が富士宮にある意義について、基本理念では「人づくりの拠点」と言っている。博物館に行 くことで、そこで学ぶということ、それから探求心、そこで学ぶ中でもっと知りたいという気持ち が湧いてきた時に、それを受け止めてくれる学芸員や資料、そういったものがそこにあって、そう いったものを得ることで次のことを知りたい、次に次にということで学びが深まっていく。

博物館は知の拠点。色々な知識、教育の材料になるものがあるところ。学芸員も知識を持ってい 文化課長┃る。学芸員や歴史文化資料だけではなく、世界遺産になるにあたって、色々な研究がされてきた。 世界遺産になったとき、本当に厚い報告書が出ている。この報告書があったから、この神社が世界 遺産になったというところもある。それは私たちの先輩方が一生懸命古文書を読んだり研究した結 果、そこの価値が認められて世界遺産になった。

まだ富士宮には明らかになっていない歴史があるので、そういったものを調べて皆さんに知ってい ただくとことになればと考えている。

「郷土史博物館」という名称は決まりではないということでよいか? Q 正式名称でないとしても、何かいい愛称があればと思う。

名称は決まっていない。検討していく。

文化課長 | 今富士宮に『きらら』、『こあら』、『らっこ』など施設について愛称がある。できるだけ公募し て親しみやすい愛称を施設につけていきたいと思う。

整備候補地の検討ということで、前々から白糸自然公園が言われていて、地元に曽我の隠れ岩、狩 宿、音止の滝、工藤祐経の墓と、歴史文化的なものがある。

博物館法の改正で、地域の多様の主体との連携協力による文化観光ということからいえば、その博 物館を見て実際何があったかということを自分で歩いて、そうすると歩く博物館と連携できると思 う。

できてほしいという前提で話をしているが、博物館というと土器や縄文時代のことが非常に多いよ Q うに思われるが、近代史、例えば戦争関係で、若獅子の塔、少年戦車兵学校など戦争関係の歴史も ある。そういうことを知らない市民も多い。先人が日本をこうやって守ってきたことなど大切だと

そういう近代的なことも博物館の中でやるとよいと思う。当然それは観光にも色んなものにつな がってくると思う。いい基本計画案を制定してもらいたい。

白糸自然公園は有力な候補地だが、湿気が非常に多く、保存についてネックがあるため、候補地と して影響があると問題点が出てきた。 この地の歴史文化について、例えば陸軍少年戦車兵学校があったなど富士宮の歴史の1ページとして 市長 当然記録して、伝えていかなければならない。 宗教の問題もあり、中々それを公の立場で守っていく、保護していくことが難しい部分もあるの で、団体を作っていただいて、市がバックアップしていく形がよいかと思う。 近代のことも取り扱っていきたい。 学芸員と博物館の話をすると十年二十年の話でなく、五十年百年後、富士宮がどうだったかという ところを皆さんに知っていただく話になる。五十年後になるともう戦争は百年以上前の話なので、 文化課長 すごく古い話になっていて、歴史として扱っていくことになる。今現在も百年後には平成の時代がど んなだったか百年先にも伝えていきたいので、これからもそういったことは積み重ねていく必要が ある。 候補地の変更は基本策定の中に入っているということか。 Q 候補地は先に決まっているということか? 候補地の変更について、基本構想を策定した時点で、候補地は3つの場所で4か所あった。この4か 文化課長 | 所を変更するということで、市が持っている市街地の土地で使える所も入れ、駅前交流センターき ららの駐車場も、5つめの候補地として基本計画を作る中で検討する。 駅前交流センターきららの駐車場が候補地になったのは、駅前通りからきららの駐車場へ入る道が なかったため。今回、所有者の協力をいただき、大型バスが入れるようになるため、候補地の一つ として浮上してきた。 市長 それぞれの候補地を色々な角度から検討し最終的に決めていくことになるが、今まで駅前交流セン ターきららの土地に対しては、建物を建てるには取り付け道路が必要で、それが今までなかった。 が、可能性が出てきたということで、候補地として浮上してきた。まだ一つの候補地だが、色々な ところを精査し、そして色々な検討をしながら決めていく。 博物館はすごく楽しみであるが、場所と費用が大事と思う。費用よりも、場所。商店街を歩いてい ると空き店舗いっぱいあり、空きビルもあるような状態であるので、すごく理想的なことを言えばそ ういった場所を一度に買い取って分散展示のようなことができるとすごく新しい試みになって素敵 だと思う。しかし、資料の施設規模を見ると、一か所で大きく建てないと大事に保存していくのは 無理なのかと思った。 おそらく中心市街地がいちばん有力だろうと思うが、きららの駐車場に建てると、駐車場が利用で Q きなくなってしまう。建てた場合、市民が普通に駐車場として商店街を利用する形で使ってよいか疑 問。実際商店街の経営者たちが、駐車場が使えなくなってしまうと困るという話を聞くと、不安に 思っているようなので、そこのところはどうなのかと。

また、工事が二年かかると書いてあり、その間の駐車場の確保も必要。

イベントの際などは満車になっているので、その点見ると大丈夫なのか?と思う。

きららの駐車場は、通常三分の一しか使っていない。世界遺産センターのほうの駐車場を観光駐車 場として使っているが、きららの駐車場に大型バスも入れ、この郷土史博物館を作ったとしても、そ れなりにきららの駐車場は間に合う予定である。予定では空いているが、これから詳しい数字を出 さなければならない。商店街の人たちも、今は自分の店の近くに駐車場を確保して、駐車場が広く あるので、その点は大丈夫と考えている。

あの土地は、富士宮市の中でも一等地である。単なる駐車場にしておくのは惜しい。やはり公共施 設として何らかの形で活用しなければもったいない土地。それなりの価値をもって使っていきた い。

今後、別の場所で、確保もできればと考えている。きららを作った時は、きららの駐車場が3台しか なかったが、私が所有者の人と話をし、あの駐車場を確保した。

市長

商店街だけの駐車場ではもったいないので、もっと有効活用したいと思っていたところ、入口のと ころの地主が使ってよいと言ってくれ、町の中心にある一等地を有効的に使えるため、候補地とし て考えてもよいのではとなった。

なお、郷土史博物館を作るのにお金がたくさんかかるという心配をされていると思う。今富十宮市 は財政的に非常に豊かであり、ふるさと納税も69億円入っている。69億円が全部入る訳ではなく、 半分の35億円くらいが入ってくるため、郷土史博物館を費用が十分満たせると考えている。博物館 をつくると、いろいろな市の事業ができなくなるのではという話もあるが、そうではなく、富士宮 市は小中学校の各教室、普通教室も特別教室も両方ともエアコンつけ、こどもたちのためにいい教 育環境を作ったり、これから市内の34の体育館に、二年間くらいで全部エアコン入れ、災害が起こ り避難所となった時にはそこでしのげるような、ほかの市にはないような政策をどんどん推し進 め、それでも財政的に大丈夫だ、という形で進めている。

Q

先ほどネーミングの話が出たが、加えて、キャラクターみたいなものがあったらよいと思う。施設 ができて、それを維持していくのもお金を出すのも全部これからのこどもたちなので、自分が ちょっとでも関わったという気持ちがないと、そこに愛着も湧かないので、全体的に巻き込んで 作ってほしい。施設の仕組みや展示の方法なども、今まであるものではなく、これから先に愛着の 持てる形を目指していきたいと思うので、上だけでなく、下まで関わって作っていけるような仕組 みで行ってほしい。今はどういう方向性か。

市長

いい提案をいただき、ありがとうございます。富士宮市にはさくやちゃんが人気である。郷土史博 物館も、そうした意味で市民が親しみを持てるキャラクターを登用していければとても良いと思

学校に協力してもらい、富士山学習などの時間を使わせていただき、博物館を作ろうとしていること 文化課長┃や、どんな博物館がいいかなど、また、キャラクターや愛称なども一緒に考えてもらえるようなこ とも考えていければと思う。

説明会が芝川で二回、上井出で二回、きららで一回、最後に市役所。それで市長が市民の皆さんの 賛同をいただきたいというものが足りるのか。

令和四年、構想が出たときに、全部で十三回やった。議会中の忙しい市長が、緊急で行わなくて も、議会が終わってからじっくりでもよかったのでは。

文化課職員が、これからまだこれを決議するといい、市長はもう決まったことだと否定した。行政 Q の中も統一されてないのか。

一番は場所の問題で、きららの駐車場の問題。今回は本当に市議会は10対10、賛成反対真っ二つになった。その中で村瀬市議が反対に回った。これはものすごいハードルが高くて、議員は地元民なので。

今回の資料は、四年前に出た資料と同じ。その時も付帯工事費を含めると30億になるという形を出した。今回はここで17億云々と言っているが、それは前回の資料と同じ。

今日出した資料は、基本理念をうたった基本構想で、先日議決いただいたのは基本計画。

議決をいただいたにも関わらず住民投票というのははおかしいと私は言っている。それでも住民投票の署名が五千くらい集まり、条例審議をしたが、本来は議決は十対十で議長採決となった。多数 決は民主主義の原理であり、議員の一票は重大な責任があるということ。

市長

そうであっても、少数意見を大事にしていくというのはこれまた民主主義の鉄則である。大事にしながら、多くの市民の皆さん、議員の皆さんにも理解してもらおうということで説明会を開いた。 私が説明会に出ることは、数が多すぎるかもしれないので、やめようとも思ったが、できるだけ私が市民の皆様の前に立ち、この状況を説明して理解していただくことのほうが、市長として最善の努力や工夫をすることが責任だと思い、今夜も明日も出る予定である。ただし、これで終わりでなく、スケジュールをみながら、また時期を見て行っていく。

この説明会で、市長はなるべく行きたいという意向で、元々決まっていた説明会のスケジュールに 合わせて逆に来ていただいている。

今回直接請求があったが、請求することは市民のいろいろな動きとしてありえることだと思う。しかし、地方自治の大原則というものが、選挙で選ばれた市長、選挙で選ばれた議員があり、そこで決めるという議会制民主主義になる。今回基本計画の予算をいただいた。その中でたくさんの議員からの宿題もあったので、今日のような場をたくさん設けている。先ほど市長と文化課職員の言った話とずれていないかという話は、これはずれてはいないと思う。

篠原副市長

市長は、私もそうだが、基本計画を進める以上は進める、文化課は事務手続きの話をしただけのずれである。

これから基本計画を作り、そのあと設計に入る。そして施工のための予算を取る。これがまた一つ一つ議会に、予算という形で諮らなければならない。それは皆さんに聞かなければならないことなので、まだまだ一つ一つ議会に図り、その時に皆さんの意見をうかがいながらやっていく。今日は本当に色々な意見をいただいてありがたかった。昨日の芝川での意見もあるので、それらも含めて、これから建物の大きさや、位置などをこれから考えていく。

	説明会は今回6回、北部、市街地、芝川と3つに分け、夜と休日の2回ずつ、そういう6回になる。令
	思っている。何としてでも良くしようと思っている。そんな取り組みをこれから頑張っていきたい と思っている。
	かないかもしれないが、市民は何度でも行ってもらうような公民館、図書館のような場にしたいと
篠原副市長	こで学んだり感じたり、そういうソフトに力を入れる場所である。そんな中で観光客は一回しか行
	博物館は展覧会の場ではなく、図書館のような場だと思っている。何回も市民に行ってもらい、そ
	ることができればと思う。
	今回はじっくり、丁寧に、もう一度皆さんにこの必要性を、そして富士宮に必要だという意義を伝